

1 実践事項

「新学習指導要領に即した外国語教育」への研修
～「言語活動をとおして学ぶ」授業改善～

2 実践内容

(1) 目的

「南城市小中学校外国語担当者研修会」「中学校研修の日」に自主研修を行うとともに文部科学省外国語調査官や本市外国語教育アドバイザー、講師を招聘し、講話や演習を通して、学習指導要領で求められている言語活動や評価等について学び、小中連携で外国語の授業づくりの充実に資する。

(2) 計画

- ①小中外国語担当者研修会
- ②校区内授業参観（小中連携）
- ③中学校研修の日
- ④調査官招聘授業研修会
- ⑤スパトレ株式会社によるオンライン英会話
- ⑥事前・事後アンケート実施
- ⑦CAN-DO リスト形式での到達度目標作成

3 実践・説明資料

(1) 小中外国語担当者研修会 大城賢氏に本市外国語教育アドバイザーを依頼しご指導を賜った。

第1回	5月27日(金)	令和4年度の南城市外国語教育について
第2回	9月20日(火)	大城賢氏(琉球大学名誉教授)による講話 学習指導要領が求める言語活動 ～迫られる指導観と評価観の見直し～
臨時	1月23日(月)	小中連携 中学区内小学校との協働授業計画
第3回	3月3日(金)	校区内授業の振り返りと次年度に向けて 大城賢氏による助言とワークショップ

第2回 大城賢氏による講話振り返りより

①講話から学んだこと(感想等)

- 言語活動全てを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価しなければいけない。
- 学習指導要領を改めて見直す機会となりました。やはり小中学校の指導要領を知ることは大切だと思いました。



○学習指導要領で変わったところを具体的に分かりやすく知ることができました。言葉の習得には表現を使って学んだり、学んで使ったりすることが大事だと聞き、これまでの外国語教育では覚えるだけで身になっていなかったと感じました。また、評価の話では実際、主体、知識技能、思考判断 表現の区別、A 評価、B 評価の境目に迷ったりするけれど、各学校で決定権があり、教師が基準を 持つ必要があると勉強になりました。

②今回の研修を受けて、自校においてどのような実践をしてみたいですか？

- 「言語活動を通して」学習させるのは分かっているけど、繰り返し練習させたり、自由な表現を言わせるような工夫ができていなかったの、目的場面状況を明確化し、子どもたちと共に目標に向かって取り組む、そして困ったらみんなて解決する、使いながら学び、学びながら使うことを意識して取り組みたいです。
- 評価の基準をしっかりと共有して取り組んでいきたいと思いました。また、言語活動を授業の中心にした単元を組み立てていきたいと思います。
- どの場面で何を評価するのかという共通理解が十分ではないと感じました。パフォーマンステストも含めて評価の場面を再度確認したいです。

(2) 校区内授業参観

☆は調査官招聘授業を行った年度

実施校 (調査官招聘授業◎)	実施日 (時間)	実施校 (調査官招聘授業◎)	実施日 (時間)
1 玉城中学校 1年生	9月26日(月)午後 13:45 ~ 14:35	船越小学校 6年生 玉城小学校 百名小学校	6月30日(木) 14:00 ~ 14:40
2 知念中学校 ☆R4	9月5日(月) 14:00 ~ ※中1の参観 10月17日(月) 文科省調査官招聘授業(3年)	知念小学校 6年生	11月14日(月) 13:35 ~ 14:20
3 久高中学校 2年生	12月1日(木) 4校時	久高小学校 3,4年複式クラス 内容は4年	12月1日(木) : : 2校時
4 佐敷中学校 1-1	6月29日(水) 15:00 ~ 15:50	佐敷小学校 3-2, 5-2 馬天小学校 6-1	9月28日(水) 10:00 ~ 12:00 9月8日(木) 11:35 ~ 12:20
5 大里中学校 1-3	10月4日(火) 午後13:35-14:25	大里北小学校 ☆R2 調査官招聘授業 大里南小学校 ※6-1 ☆R3 調査官招聘授業	9月15日(木) 14:50 ~ 15:35

①玉城中学校校区



②知念中校区



③久高小中学校



④佐敷中学校区



⑤大里中学校区



義務教育課の『「問い」が生まれる授業のポイント（外国語）』をもとに作成した「授業参観シート」を活用し、授業の視点を合わせて授業や参観を行った。「言語活動を通して学ぶ」授業について小中で確認し、意識して取り組むことができた。

(3) 中学校研修の日

第1回	6月9日(木)	令和4年度南城市外国語教育について CAN-DO リスト形式による到達度目標の作成
第2回	7月14日(木)	木村達哉氏（元灘中学校・高等学校教師）による講話
第3回	10月13日(木)	大城賢氏（琉球大学名誉教授）による講話

< 第2回 木村 達哉氏 講話：「英語指導法 基本の基本」感想 >



- 「忘れることを前提として指導する」「どうして勉強をするか生徒に考えさせる」何度も繰り返し練習する場面を設けます。
- 英語の指導法についてどれも参考になり今後の授業に早速取り入れたいと思います。特に a と the を教えるとき指をさして生徒を巻き込んで体験的に教えることで生徒も理解しやすいし楽しいので印象に残ると思いました。
- 練習や復習の仕方を示すのが大切と気づかされました。また教材のストックをたくさん持つておくという言葉も心に響きました。スキマ時間にコツコツとストックしていこうと思います。
- 教師自身も自分を高める時間を持つという言葉にハッとしました。実行しようと思います。

< 第3回 大城 賢氏 講話「学習指導要領が求める言語活動」感想 >



○言語活動を通して、いろいろな単語や文法等を習得できることを改めて感じた講話でした。「使いながら学び、学びながら使う」を繰り返し、「使う」を意識し授業を試行錯誤しながら行っていききたいと思います。

○ Small Talk や Reading から Writing への自分の考えや思いを伝え合う練習を繰り返しながら、生涯英語を使い続け学び続ける生徒を育むぞと決意しました。

○子どもたちの気持ち、考えを重要視することが大切だと痛感しました。何より自分の気持ちを伝えているときの生徒達はすごく楽しそうなのです。「やりとり」から「書いてみる」という言語活動を通して、まずは使ってみて後から「正しく表現するためには」と学ぶことを実践してみ、私自身可能性を感じています。

(4) 調査官招聘授業研修会

< 研究授業 >

日 時：令和4年10月17日（月）14時00分～

場 所：南城市立知念中学校

学 級：3年2組

授業者：T1 大城 いずみ 教諭 T2 平良 聖子 教諭

1. 単元名 Program 5 The Story of Chocolate 『SUNSHINE ENGLISH COURSE p.63~p.74

2. 単元の目標

社会的な話題についてサム先生と話をするために、英文を読んで把握した内容に基づき、考えたことや感じたことを伝え合うことができる。

3. 本時の学習【4/11 時間】

(1) 目標

現代のようなチョコレートがどうやって生まれたかのスピーチ原稿を読んで、自分の考えや感じたことを伝え合うことができる。

(2) 本時の授業の工夫

① Small Talk では生徒が表現を使う目的・場面・状況を設定し、やり取りできるようにした。

②言語活動では、型 (OREO) を示して考えや感じたことに理由と例を交えて話すようにした。



Small Talk



気持ちを表す表現法を出し合う



英語で伝える

大城教諭は「言語活動を通して学ぶ」授業を調査官招聘授業後も継続したので、本市外国語授業アンケートで「英語好き」と答えた生徒が6月42.5%から12月には56%に上昇

< 授業研究会 >

講 師 文部科学省 初等中等教育局 外国語教育推進室 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部

教育課程調査官 入之内 昌徳 氏（英語）

演 題 学習指導要領の趣旨を踏まえた中学校外国語科の指導の改善・充実

～コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指して～



<振り返りより>

①公開授業を参観して

- 型を示すだけで（OREO）自信を持ってペアとやりとりができており、また書くことに繋がっていた。イラストの並べ替えも、キーワードを書かせることで、概要がつかめる、考えがまとまることに繋がっていた。
- まず中3生のレベルに驚きました。そして中学校でも言語活動を中心とした授業に変換していくんだと思いました。小学校と違って中学校は正確に話さないといけないところがあるが、話したくなるような工夫はとても大事だと感じました。
- 生徒が自由に考えるためには時間が必要だということ。そしてそこへ導くための指導法の在り方の工夫等。

②研修会を通して

- 原点に戻り、中学校の役割を考え直した時に小学校と指導が被ってしまっている部分も実際にあったりして、凄く二重に指導してしまっていたと私自身も感じたので、子供達がどこまで小学校で学んできたのかをしっかりと把握して子供達の考えを自由に表現させるようにしたい。
- 教科横断的な視点からの教材研究や、郷土のことをもっと学ぶというような、英語を通して自分の学びを深めていけるような授業の展開が必要という話が特に印象に残った。教師の役割について学んだので、自身の授業改善につなげ、よりよい授業を行えるよう励んでいきたい。
- なるべく多くの英語を聞かせられるよう担任も積極的に英語を使えるようにしていきたい。また ALT や中学の先生とも協力して授業を進めていきたい。

(5) スパトレ株式会社によるオンライン英会話

1人1台端末を活用し、生徒と外国人講師が1対1で25分間オンライン英会話を行う。経済産業省の補助事業を受けて、スパトレ株式会社のプログラムを今年度7月後半から3月まで受講できるようになった。授業で習ったことを発揮する機会に児童生徒は集中して、時には身振り手振りを加えて外国人講師と会話をしている。

※今年度実施校

7月申請校：市内中学校、大里北小学校、大里南小学校、久高小学校

10月申請校：船越小学校、玉城小学校、百名小学校



大里北小学校



船越小学校



玉城小学校



大里南小学校



佐敷中学校



知念中学校



大里中学校↑

玉城中学校↓

～生徒の声～

- ・授業で勉強した英語が使えた ・英語を話すのが楽しいと思った
- ・初めて英語で、海外の人と一対一のやりとりが出来た
- ・うまくお話できなかったけど、簡単にしてくれたのでわかった
- ・次は相づちを打ったりしながらもっと話せるようになりたい
- ・海外の方と会話するのが夢だったから、聞き取るのは難しかったけど嬉しかった
- ・I could speak the English that I have studied in class for 3 years.
- ・(To trainer) Thank you for teaching me politely even though I couldn't speak English. It was a lot of fun.

※中学生は英語で感想を書いている生徒もかなりいました。



(6) 事前・事後アンケートより (英語が好きと答えた生徒)

小学生	6月	80.0%	スパトレ実施校は上昇	中学生	6月	51.8%	内容は難しくなったがほぼ維持
	12月	81.0%			12月	51.1%	

4 成果

- 外国語アドバイザーや講師を招聘し小中外国語担当者研修会・中学校研修の日で講話をしてもらったので、新学習指導要領の改定のポイントやその趣旨に沿った授業を意識できた。
- 調査官招聘授業に向けて、授業者の大城教諭は6月から生徒が自分の思いや考えを発話する機会を設け、発話したことを書くを繰り返したので生徒は発話も文もしっかりした。また、その授業を見て、研修会で講話を聴き市内教師が「言語活動を通して学ぶ」を意識した。
- 校区内小中連携授業を通して、小学校は中学校での学びを意識し、中学校は小学校で学んだことを把握でき、系統立てたなめらかな接続を考えるようになった。
- オンライン英会話を通して、習ったことが通じる喜びや表現できなかったことを次は伝えられるよう授業を頑張りたいと、児童生徒の外国語学習への意欲につながった。
- 児童生徒、全教師にアンケートに授業についてのアンケートを行ったので、参観に行くと授業の流れに反映されている学校が増えた。

5 課題

- 小中外国語担当者連絡会や調査官招聘授業は、担当者が参加するため全員に浸透する手立てとしてオンデマンドで配信したが、視聴者は多くはなかった。
- 校区内連携授業参観は時間を見出して行ったので、授業後の振り返りの時間が持てず振り返りシートにて行った。次へ生かすため第3回の小中外国語担当者連絡会で共有する。
- 授業内の言語活動やオンライン英会話で伝えたかったが伝えることができなかった児童生徒への支援法を考える。
- 生徒が「自分の考えや気持ちを表現する活動があった」と答える割合の多い学校は「英語が好き」と答える生徒が多かった。継続した取り組みを行いたい。